

研究構想図

杉並教育ビジョン2012

- ◆夢に向かい、志をもって、自らの道を拓く人
- ◆「かかわり」を大切に、地域・社会・自然と共に生きる人
 - 1 自分の持ち味を見つけ、自ら学び、考え、判断し、行動する力
 - 2 変化の時代をとらえ、たくましく生きる心と体の力
 - 3 豊かな感性をもち、感動を分かちあう力
 - 4 他者の存在を認め、多様な関係を結ぶ力

児童・生徒の実態

- 基本的な生活習慣が確立できている
- 学習意欲が高い
- 将来の夢や希望をもっている
- 自己肯定感が低く、自分に自信がない
- 人間関係の構築がうまくできない
- 集団での取り組みが弱い

主題設定の理由

近年、中学校入学時において、人間関係のトラブルが多く見受けられる。そこで、「心の教育」に重点をおいた、望ましい人間関係の育成が必要と考え、お茶の水女子大学の協力を得て、心理教育の実践と学級風土質問紙を通してレジリエントな学級作りを実践・検証することにした。また、そのためには、小学校との連携を図り、「自尊感情」「自己肯定感」の向上についても研修する必要があると考えた。

研究仮説

「自尊感情」「自己肯定感」を高めることにより、良好な人間関係を築くために必要な態度（協力し合う・助け合う・支え合う・認め合う・励まし合う）が育まれる。つまり、小学校での「自尊感情」「自己肯定感」を高める取り組みが基礎となり、中学校ではそれを更に発展させることにより、「人間関係を築く力」が向上するのではないかと仮説を立てた。

研究内容

研究課題：「9年間の学びの連続に関わる研究」

（自尊感情・自己肯定感の向上と人間関係の育成に重点を置いて）

- 「9年間の学びの連続」についての研究
各校の取り組みの情報交換
9年間の年間指導計画の作成
- 「小中連携の在り方」についての研究
小中合同研究会（講演会・分科会形式による協議会）の実施
小中が連携できる授業や行事の実施
- 望ましい人間関係の形成につながる研究
心理教育の実践とレジリエントな学級づくりの実践（中学校）

成果

- 「9年間の学びの連続」について
9年間の連続した指導計画が制作できた。その結果、小学校では、中学入学までの目標がはっきりし、中学校では、それまでの既習内容が確認できた。
- 「小中連携の在り方」について
小中合同研修などを通じて、小中連携はもとより小小連携の話し合いができた。また、図書館活動などでの新しい連携が始められた。
- 望ましい人間関係の形成について
思いやりの気持ちをもって他者に接することができる生徒が増え、学年が上がるごとに良好な人間関係を築けるようになってきた。

課題

- 「9年間の学びの連続」について
小学校（学級担任＝教科指導者）と中学校（学級担任≠教科指導者）のスタイルの異なりを理解した上での連続性についての研究が必要である。
- 「小中連携の在り方」について
小学校2校と中学校1校という関係や学校間の距離などの物理的な問題の解決策と3校の特長を生かせる連携についての研究が必要である。
- 望ましい人間関係の形成について
他者への関わり方の望ましい技術を身に付けたので、今後は、さらにそれを活用し、実践していく場の設定・指導法の工夫が必要である。

杉並区立宮前中学校

〒168-0081 東京都杉並区宮前2-12-1
Tel:03-3333-8728 Fax:03-3247-9356
<http://www.suginami-school.ed.jp/miyamaechu/>

■研究協力校

杉並区立荻窪小学校

〒168-0081 東京都杉並区宮前2-13-18
Tel:03-3333-6628 Fax:03-3247-8631
<http://www.suginami-school.ed.jp/ogikuboshou/>

杉並区立久我山小学校

〒168-0082 東京都杉並区久我山5-18-7
Tel:03-3331-3631 Fax:3247-8415
<http://www.suginami-school.ed.jp/kugayamashou/>

研究主題

望ましい人間関係の育成を目指す 指導法の工夫

～児童・生徒の自尊感情・自己肯定感を高める実践活動を通して～

杉並区立宮前中学校（協力校:杉並区立荻窪小学校・杉並区立久我山小学校）

教育委員会挨拶

杉並区教育委員会教育長 井出 隆安

杉並区教育ビジョン2012では、基本目標に「共に学び共に支え共に創る杉並の教育」を目指す教育として掲げ、「かかわり」を大切に、地域・社会・自然と共に生きる人を目指す人間像の一つとしています。

杉並区立宮前中学校は、平成26・27年度杉並区教育課題研究指定校として、杉並区立荻窪小学校、杉並区立久我山小学校と共に、児童・生徒の自尊感情・自己肯定感を高める教育活動を実践してきました。荻窪小学校の「ヒューマンディグニティ教育」、久我山小学校の「認め合い、励まし合い」等の他者とかかわり合う活動を基盤とし、宮前中学校では異学年が積極的に交流する縦割り活動に発展させてきました。お茶の水女子大学の協力により心理学的なアプローチから研究を一層充実させ、他者に思いやりの気持ちをもって接することができる生徒が増え、望ましい人間関係を築く力の育成に成果が現れています。

本校の研究成果が他校のよきモデルとなり、子どもたちが多様な他者とかかわりをもつことを通して自らの生き方を考える力を身に付け、学力・体力・社会性が調和的に育成されることにつながることを期待しています。

心豊かな児童・生徒の育成を目指して

杉並区立宮前中学校 校長 渡邊 裕子

複数校の小学校から入学する生徒で構成する中学校は、1年時に環境に不適應を起こし、人間関係で困難さを感じる生徒が少なくありません。望ましい人間関係を形成し、集団の一員として生活する力を育成することは、将来にわたり必要です。そこで、学級を単位とした集団作りに焦点を当て、心理教育授業も活用し人間関係の育成の研究に取り組みました。3校で、児童・生徒の共通理解を図り、目指す児童・生徒像の育成のため、連携し具体的取り組みを模索した2年間でした。小学校での自尊感情や自己肯定感の向上を図る取り組みの連続を意識し、中学校での実践に繋げました。9年間の年間指導計画が作成できたことは一つの成果と受け止めています。

最後にこれまで共同研究の形態をとり、ご指導いただきましたお茶の水女子大学大学院准教授 伊藤 亜矢子先生、ご助言・ご指導いただきました関係の先生方、杉並区立済美教育センターの皆様方に心より御礼申し上げます。

児童の自尊感情や自己肯定感を高めるための 荻窪小学校・久我山小学校で連携した取り組み

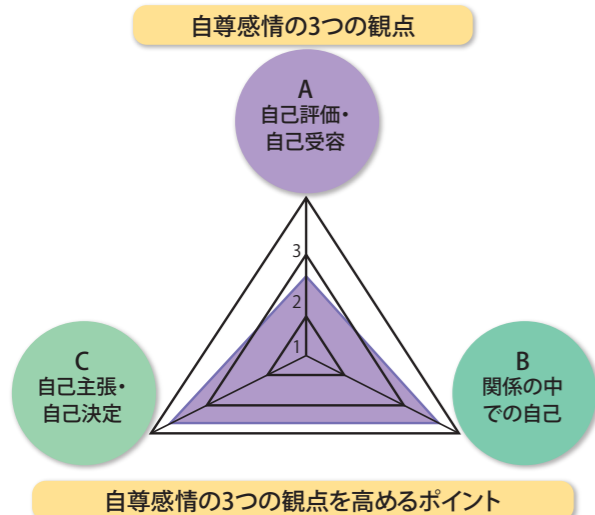
年間指導計画の作成

【小学校第6学年】
自尊感情や自己肯定感を高める指導の年間指導計画(例)

各教科等の単元や題材の目標、内容等を踏まえ、指導のねらいを明確にし、指導の視点や留意点を設定した年間指導計画を両校で検討し、作成しました。

自尊感情の傾向の把握

自尊感情測定尺度(東京都版)の「自己評価シート」を使い、自尊感情のすべての観点(A.B.C)に基づいて、子供の自尊感情の傾向を把握しました。



各教科等の指導で高める

何を指導するのか(学習内容)、
どのように指導するのか(指導方法)の重点化

学習内容で高める

各教科や道徳、特別活動等には、学習のねらいそのものが自尊感情や自己肯定感を高めることにつながるものがあります。年間指導計画に位置付け、計画的に取り組めるようにしました。



荻窪小学校6年 道徳 「謙虚・寛容」の心を考える

指導方法で高める

指導方法を工夫することによって、学習を通して「できた」「分かった」と実感をもつことができます。また、教員や友達に褒めてもらったり、認めてもらったりすることで自尊感情や自己肯定感を高めるようにしました。



久我山小学校1年 国語 「おもいだしてはなそう」

荻窪小学校での取り組み



いじめ防止のための「学習プログラム」
5年「自分らしさ」と友達の「その人らしさ」を探そう

ヒューマン ディグニティ教育

ヒューマンディグニティ(人間の尊厳)に関わる取り組みを全教育活動の場で推進しました。



教員研修会 子供にとって重要な他者になるために

自尊感情・自己肯定感を高める

いじめ防止教育プログラム

東京都教職員研修センター発行のいじめ防止教育プログラムを全学級・全職員で取り組みました。

専門家との連携

東京学芸大学 松田修准教授による自尊感情に関する研修会を開催し、全教員で共通理解を図りました。

久我山小学校での取り組み

授業・学級指導

- 学習内容で高める
教科・道徳・学活(SST・エンカウンター)の授業
- 指導法で高める
ペア学習・グループ学習などかわりあいを大切にする授業
- 認め・励ます言葉かけ
・教師からの認め励ます言葉かけを共有する
・ほかほか言葉(児童相互)

共に輝く 久我山っ子

自尊感情・自己肯定感を高める

認め・励ますかわり

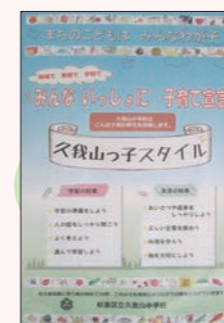
人権カレンダー・絵手紙活動

- 自他共に認め思いやりの心を育む活動
- 自分らしさを大切にする活動
- 社会活動を通して、人を大切にしようとする心を育む活動



久我山っ子カレンダー

久我山っ子スタイル 心を育てる基礎



家庭で

- 学習規範・規範意識を育て安心して学ぶために
- 学校・地域・家庭で共に育てるために

小中合同研修会

自尊感情や自己肯定感についての理解を深める

全5回

1 東京都教職員研修センター指導主事による講義

「自尊感情や自己肯定感を高める教育の推進のために」
(平成26年8月実施)
教科等の指導で「人間関係を築く力」を高める
(平成27年7月実施)



2 研究授業

「自尊感情や自己肯定感を高める指導法の工夫」・協議会
(平成26年10月、平成27年7月実施)



3 3校の教員がグループに分かれ、各学校の取り組みや課題・授業等で大事にしていることについての情報交換

(平成27年8月実施)

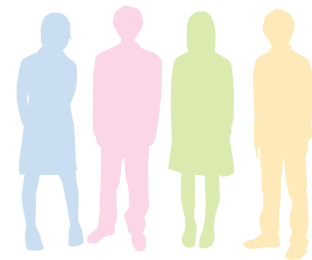


中学校での取り組み

お茶の水女子大学大学院研究グループによる心理教育授業

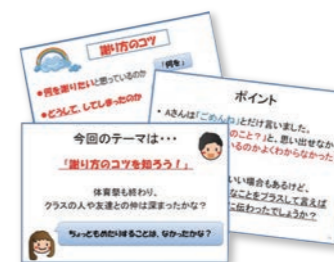
(平成26年度実施 全8回)

月	授業内容
4月	「お互いのこと、もっと知り合おう!」 学級開き 担任の先生からのメッセージは?
5月	「団結力のあるクラスにしよう!」 体育祭に向けて、お互いに励まし合うことの大切さを知る
6月	「謝り方のコツを知ろう!」 良い関係を続けて、もっと仲良くなるために。
8月	「自分の気持ちを上手に伝えよう!」 「メッセージで上手に思いを伝える。」
10月	「はげましコトバ応用編 もっと使えるようになろう!」 合唱祭に向けて、お互いに励まし合うことの大切さを知る
11月	「謝り方のコツ 応用編 もっと使えるようになろう!」
1月	「「メッセージで上手に断ろう!」
2月	「いろいろな場面で上手に断ろう!」



笑顔を照らす『あい』の使者

担任の先生からのメッセージ



心理教育で学んだポイントは、いつでも思い出せるように、クラスに掲示しています。



行事や総合的な学習の時間に、自分の考えや意見を伝え、互いを認め合う場面を設けています。

フレンドシップスクール

平成27年4月

その日の活動を反省し班でまとめをして、発表。
友達の良いところも認めて、皆に伝えます



付箋を使って皆の意見をまとめていきます

下町校外学習の調べ学習

平成27年7月

班のテーマに基づいて、役割を分担し、協力して一つの物を作り上げます。



学習テーマ「江戸・東京を知る」



が結ぶ
小中合同
図書館活動

「だいじなあなた」の本だな

「生命尊重」「自尊感情」「人間関係づくり」「人権」「個性尊重」等をテーマに三校の学校司書がブックリスト「だいじなあなた」の本だなを作成した。
リストと蔵書を利用した読書交流活動を行うことで、自己肯定感の基盤となる価値の共有を図る。

小学校



中学生が作成したPOP・本の帯作品を熱心に見る小学生

POP等による本の紹介

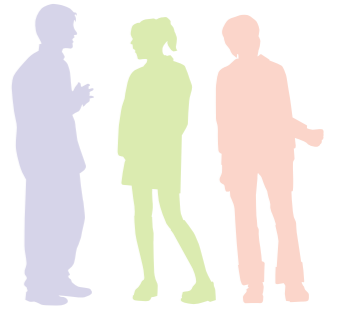
中学生へのお手紙

中学校



小学生からの手紙に見入る中学生

「自尊感情の向上と望ましい人間関係の形成」に重点を置いた 主な取り組み (道徳・総合的な学習の時間・特別活動・行事)



学校全体(縦割り)の活動

3学年の枠を取り外して進める活動

- 上級生は、下級生を指導することによって、自らの行動を見つめ直し、よりよい姿を作り上げる。
下級生は、上級生の姿を見て、将来の自分たちのあるべき姿を考える。(自己肯定感・自尊感情)
- 上級生は、リーダーとして責任や上級生としてふさわしい態度を学ぶ。
下級生は、教えられる側のマナーやふさわしい態度を学ぶ。(望ましい人間関係)

体育祭

- 全校練習の指導を3年生の実行委員が行う。
- 紅白種目(騎馬戦・綱引き)の練習会を3年生が中心となって行う。

合唱祭

縦割り練習会を行い、3年生の実行委員が司会進行をする。
3年は2年へ、2年は1年にアドバイスを与え、1年生は3年生に感想を言う。

3年生を送る会

- 企画から司会進行までを、2年の実行委員が中心に行う。
- 3年生からは、在校生に対して感謝の気持ちを述べる。



3年生を送る会 最後は1・2年生の手作りアーチでお見送り

学年別の活動

学年の行事を中心に、学級や班などの集団を利用して進める活動

- 発表活動などを通じて、一人一人の考えや個性を伝える。
(自己肯定感・自尊感情)
- 班長などの役割を意識して、それぞれの立場にふさわしい態度を学ぶ。
(望ましい人間関係)

校外学習

- コース決めなどを、テーマに基づいて話し合いで決める。
- 自分の役割を責任をもって行い、集団を意識して活動する。

進路学習

- 自分の個性を知り、これからの生き方を考える。
- 上級学校訪問や職場体験を通じて、社会のルールやマナーを学ぶ。

弁論発表会

- 自分の考えを整理し、みんなの前で堂々と発表する。
- 他人の発表を聞き、様々な考えがあることを理解し、相手の個性を認める。



弁論発表会 クラス発表→学年発表→全体発表と進んでいく

特別支援学級(E組)との活動

併設されている特別支援学級と通常学級との協働した活動

- お互いの特徴や個性を理解し、認め合う。
(自己肯定感・自尊感情)
- お互いの特徴や個性を理解したうえで、その場にふさわしい態度を学ぶ。
(望ましい人間関係)

よさこい発表

- 体育祭の演技種目として、E組と1学年と一緒に練習し発表する。
- E組の2・3年生が、1年生に踊りを指導する。

交流給食

- 給食委員会が中心となり、E組と1年生や2・3年生の希望者が一緒に給食を食べる。
- 食べながら、会話をしてそれぞれが交流する。

合唱祭の伴奏

- 合唱祭のE組発表の伴奏者を、通常級から募り、練習から発表まで行う。



交流給食 給食後はそのまま昼休みを一緒に過ごす

小中連携の活動

小学校と中学校が様々な場面で、協力や交流を行う活動

- 発表活動などを通じて、中学生として成長した姿を見せる。
(自己肯定感・自尊感情)
- 上級生としての立場を意識して、それぞれの場面でふさわしい態度を学ぶ。
(望ましい人間関係)

生徒会説明会

- 生徒会役員が、小学校に行き中学校生活について説明する。
- 小学生が興味をもち、分かりやすい説明になるように工夫する。

合唱発表

- 合唱祭で優勝した3学年のクラスが、小学校に行き受賞曲を披露する。
- 優勝した歌声だけでなく、中学3年生としての立派な態度も見せる。

E組交流

- 特別支援学級(E組)が小学校に行き、交流をする。
- E組からの発表活動と小学生との一緒にできる交流活動を行う。

その他の交流

- ・ 中学校教員による授業(英語科・体育科など)
- ・ 作品展への作品展示(小学校の作品展に中学校生徒の作品も展示する。)
- ・ 夏休みパワーアップ教室の指導者交流(小中が互いの指導者に加わる。)



合唱発表 演奏の前には小学生へのメッセージを伝える

